

J P 労組北陸退職者の会会報

第36号

2022年10月1日
発行責任者
近藤源一郎
編集責任者
串田信行

基本活動の「親睦と交流」の前進を

「現退一体」に向けて現退間交流・協議

第8回地方総会で確認



2021年度経過報告、2022年度活動方針の提案
説明する串田事務局長

J P 労組北陸退職者の会（近藤源一郎会長）は、去る8月13日（土）、金沢市の金沢勤労者プラザで第8回地方総会を開催しました。

総会には、コロナ禍にあって、連協代表24名中18名の出席。地方幹事10名中10名、会計監査2名中2名出席。来賓として専従役員6名が出席されました。

仮議長の任にあたった串田信行事務局長は、開会のあいさつ、出席者の確認と総会の成立を宣言した後、総会議長に福井連協代表の佐々木賢次さん（福井東部支部）を推挙し参加者の同

意を得て選出された佐々木議長にマイクを渡ししました。

佐々木議長は、議事日程の確認の後、議事日程に沿った的確な判断による総会の運営と進行に努められました。

地方幹事会を代表して近藤会長は「7月の参議院選挙で会員のみなさんの協力で柴慎一さんを当選させる

総会議長に

佐々木賢次さん

（福井東部支部）を選出

ことが出来ました。ご協力に感謝申し上げます。コロナ禍で会員宅訪問が思うように出来なかったが、支部・連協役員のみなさんが頑張った結果だと思えます。また、この一年、会員数の5%を目標とした会員の拡大については、北陸全体では27名の新規加入がありましたが、死亡等の減少を上回ることが出来ませんでした。今後は私たちの会の目標とする『会員との交流と親睦』を支部・連協で工夫して開催し退職者の会の存在感を高め、退職者の会に入っていて良かった、退職者の会に入りたいと思わせるよう、お互いに頑張りましょう。」とのあいさつがありました。

（2頁つづく）

表1. 総会に出席された連協代表のみなさん

富山	川瀬敏明	富山東部
	井波和男	富山東部
	谷杉満江	富山東部
	大屋昭一	富山西部
	笹島清春	富山西部
	西田一朗	富山西部
石川	寅松清一	能登
	山田清隆	能登
	東良光	石川中央
	吉岡純一	南加賀
	多田和美	郵政金沢
福井	東幹雄	福井東部
	佐々木賢次	福井東部
	平井清一	福井中部
	田中重一	福井中部
	古谷明	福井南部
	橋詰二三夫	福井南部
	谷口啓子	福井

表2. 信任された2022年度の役員のみなさん

役職	氏名	所属	
		連協	支部
会長	近藤源一郎	福井	福井東部
福会長	川添晃	富山	富山東部
事務局長	串田信行	石川	石川中央
幹事	本間重雄	富山	富山西部
幹事	西田一朗	富山	富山西部
幹事	尾田隆	石川	石川中央
幹事	中西伊知郎	石川	郵政金沢
幹事	政所峯子	福井	福井中部
幹事	塚本隆	福井	福井南部
幹事 (中央幹事兼任)	坂本哲治	石川	富山東部
会計監査	車谷芳宏	石川	石川中央
会計監査	東幹雄	福井	福井東部

(1頁からのつぎ)
引き続き串田事務局長から、2021年度の活動経過報告、組織慶弔安定会計報告および2022年度活動計画案の提案説明があり、西野松一会計監査から会計監査報告がされました。串田事務局長の2022年度の活動方針の提案説明での強調点は、一つに、「コロナ禍にあっても創意工夫に努力し、退職者の会の基本活動である「親睦と交流」に取り組んでいただくこと

を要請する。二つに、高齢者の会員が多いことから、「会員宅訪問活動」により会員を見守りサポートする「世話役活動」の前進を目指して欲しい。三つに、減少傾向にある中、会員の拡大は重要な活動であり、全国展開している「現退一体」による協力会員・正会員の拡大については、連協・支部において「現退間交流・協議」を深め、連帯して欲しい——との三点でした。質疑応答では、会費の納

入人員と組織慶弔安定会計の納入人員が違つのはどうしてか、との質問があり、会費の納入は昨年4月1日から本年3月31日までの経理として報告しましたが、組織慶弔安定会計は新設会計と言つことで昨年の4月1日から会計監査を実施し



た7月28日としたことでの違いです——との答弁で理解を得ました。以上の質問の他に質問は無く、拍手多数で各報告と提案について承認・採択されました。引き続き「役員改選」が提案され、表2のとおり

信任されました。なお、今期の任期は、昨年の全国総会確認により1年です。コロナ禍にあつて開催しました第8回地方総会には、出席者全員が総会に出かける朝に送られて来た「コロナウイルス抗原検査スティック」で検査をして陰性の方のみ出席とし、総会出席時に配布の同様のスティックで帰宅時検査をすること、会場での検温アルコール消毒とマスクの着用など万全を期しました。

最重要課題に活発な議論が展開される 北陸から近藤会長、串田事務局長、尾田幹事が出席 コロナ禍の中「第8回全国総会」を終了



第8回全国総会に北陸代表として出席
左から 串田事務局長、近藤会長、尾田幹事

第8回全国総会は、去る8月2日、東京都内のホテルで開催され、地方代表者からJ P 労組退職者の会が直面している最重要課題について多くの意見が出され白熱した議論が行われました。特徴的には、①会員の減少を食い止めるには現退一体の取り組みを確立する必要がある、②柴慎一勝利を喜びながらも、今後に向けた総括の必要がある、③中央幹事会が提案している「女性会員の拡大」や「3千人アンケート調査」の実施検討への意見などでした。

北陸退職者の会からは、

7月10日投票された「第26回参議院選挙」で、難波奨二前参議院議員から禰を引き継いでJ P 労組の組織内候補者として立候補した「しば慎一」さんは、見事に当選を果たし、8月3日開会の臨時国会で国会議事堂正門から議員バッチを胸に堂々の入場をしました。議員会館事務室は「10009号室」で、電話番号は03-6550-11009、faxは03-6551-11009です。事務所への立ち寄り、国会見学などよろしくお願ひします。



堂々と国会の前に立つ「しば慎一」さん

国会に登庁「しば慎一」

近藤源一郎会長、串田信行事務局長、尾田隆幹事が地方代表として、中央幹事会幹事として坂本哲治が出席しました。近藤会長が北陸を代表して①会員拡大、②参議院選挙の具体的取り組み、③生涯組合員のあり方の早急な検討——などについて意見を述べました。多く出された意見に対して中央幹事会の見解は、会員拡大（協力会員、女性会員）に向けては、現退一体

の取り組みは支部での協力が必要。支部の担当者顔を合せ情報交換から始めて欲しい。また、参議院選挙の総括については、現役の総括を見守りたい。生涯組合員制度については、再度、検討を早めるよう現役に求める——等でした。役員改選（今期の任期は1年間）では、幹事に北陸から坂本哲治さんが再度選出されました。

各連協・支部で「現退一体」を確立

2022年度第1回地方幹事会で確認

北陸退職者の会（近藤源一郎会長）は、9月22日（木）、金沢市内で2022年度最初の幹事会を開催し、向こう一年間の活動方針の具体化について協議・決定しました。

北陸三連協の三役で構成する「地方幹事会」は、8月13日に開催の第8回地方総会で採択された2022年度の活動方針の具体的取り組みについて協議を重ねました。

「親睦と交流」は創意工夫して

まず、会員相互の「親睦と交流」については、コロナ禍で開催を控えてきたが、退職者の会の基本活動であることから、連協・支

部はコロナ感染状況を考慮した上で創意工夫した取り組みを行うことを確認しました。

会員宅訪問で会員の見守りを

つぎに、会員への「世話役活動」については、支部が共済商品の案内などの機会を企画し、会員宅訪問に

させるよう指導する取り組みをしました。

現会員数の5%拡大を

現会員数の5%拡大目標とした「会員の拡大」については、「現退一体による

いは、今日までの取り組み内容を踏襲することしました。

《協力会員・正会員》の拡大を推進することが最も重要であることから、まず、連協・支部において現役と退職者の会役員が顔を合わせ話し合いをすることを深め、定期的に具体的な取り組みを協議し実践するよう指導することしました。後は、政治活動の取り組み、平和活動の取り組み、共済活動の取り組み、会報の発行などの活動方針につ

参考までに、地方幹事会は独自の予算が無く、地方総会、同幹事会の開催は回数や出席者などが決められ、会報の発行についても年4回で、これらの活動経費はJ P 労組北陸地本（現役）会計から支出していただいております。また、各連協の総会と幹事会の開催経費についてもJ P 労組北陸地本経費から支出されています。



健忘記

立ち上がって別の部屋に移動したが、何をしに来たのか思い出せない。また、あの人は何と言う名前だったっけ。この頃このようなことがちよくちよくある。これが認知症なのかも。◇介護付き老人ホームに世話になっている105歳の母は、未だに孫やひ孫の名前をはっきり言えるし、特別養護老人ホームに入所の80歳の兄は、下半身と左腕に障害があるがボケることなく元気になっている。◇母は毎日のように折り紙などをせっせと好きだ。月に2、3冊の塗り絵本を差し入れてくれる。◇私は、毎日の晩酌が出来ることに喜びを感じ、週に一度の「休肝日」を設けた方が良いとの医者のお言葉を無視している。◇母や兄のように何か手作業をした方が良いと思いつつも、たまにマージャンをしようと思うが、田舎では雀荘も無く、集まる仲間も居ない。このままではボケが進みそうだ。(さ)

コロナに負けず、創意工夫した活動を